

清瀬で生きる

きらり

女性にインタビュー

# 仕事も家庭も、無理せず、柔軟に

インターナショナル・プリスクール  
「キャタピラー・キッズ」園長

立川

うきよん  
祐敬さん



英語による教育を行うスクールを立ち上げて6年目。英語の力を身につけるだけでなく、日本の幼稚園と同じように、礼儀作法をはじめ、運動や音楽の指導も行っています。インターナショナルスクールと日本の幼稚園の長所を取り入れたスクールを目指す立川さんにインタビューしました。

## ●立ち上げたきっかけ

私は韓国で生まれ、3歳の時にアメリカに移住しました。その後、幼児期をアメリカで過ごして一旦帰国。26歳で来日し、夫と出会いました。結婚を機に清瀬に住み始め、私自身も二児の母です。

自分の子どもたちにも英語を触れさせたいと思い、様々なインターナショナルスクールを見学しましたが、私が望むスクールには出会えませんでした。ならば自分で立ち上げてしまおう、と思ったことがきっかけです。

## ●仕事で大切にしていること

子どもの可能性を、大人の基準で決めつけないようにしています。最初から上手にできる子どもはいません。誰かが粘り強く見守って応えてあげると、子どもたちは頑張れるのです。我が子の成長を粘り強く待つことは、時にストレスに感じることもあるでしょう。子育ては誰かの協力が必要なものなのです。私たちにそのサポートができるように、と心がけています。1年間かけて成長する子どもたちの姿を見ることが、この仕事の喜びです。

日本の教育はしつけや礼儀がしっかりしており、世界に誇るべきものだと思います。親が子どもたちを客観的に見る目を持ち、社会に出るための準備を、子どもたちに教えることも大



切です。そのためにも、先生と親たちが協力し合える関係ができればと思います。

## ●今後の夢

小学校4年生から、学童がなくなってしまうと悩むママたちの相談を受けます。そこで、このスクールでも英語での学童保育ができればと考えています。保育しながら英語の学習もでき、メリットは多いと思います。

## ●仕事と自分の生活のバランスは？

母親業は24時間体制です。その中で無理に自分の時間を作るのではなく、苦手な料理は夫にお願いするにしました。自分のパートナー、両親、友人、子育て支援サービス等、何でもいいと思います。頼める誰かがいる環境に、自分を置くことが大切だと思います。

また、私は考えることが大好きなので、家事をしながら仕事のことを考えたり、仕事をしながら子どものことを考えたり

しています。そのため、仕事と自分の生活に境界線は引いていません。例えば、家族と出かけた時に、仕事で活かせそうなものに会おうこともあります。今は家族との時間だから、と諦めてしまうのではなく、柔軟に対応して仕事に取り入れるようにしています。仕事と自分の生活を明確に分けてしまうと、片方のバランスが崩れた時、天秤のようにもう一方も崩れてしまうこともあります。むしろ仕事、家事、育児、趣味と細かく八角形のように広げること、一つの角が崩れても他の角で補い合え、全体のバランスも保つことができるのではないのでしょうか。

## インタビューを終えて

心に一本の芯を持ちながらも、柔軟な生活バランスの取り方をされている立川さん。楽しく笑顔あふれる会話の中にも、子どもたちと真剣に向き合い、支えようという熱い思いが伝わりました。(取材 竹下)

生涯続けられるような、自分に合ったスポーツを見つけたかったです。でもまずは柔軟体操から始めます。